

ダニエル書 - 第143番

預言的パターンの解明：最後の大統領と獣の像

Jeff Pippenger

2024-03-18

聖書の預言における最初の王国はバビロンであり、バビロンに関する預言の証言では、最初と最後の王が明確かつ意図的に預言的象徴として用いられている。第二の王国であるメド・ペルシャでは、最初の二人の王（その一人は、古代イスラエルのエルサレム帰還を許可する三つの勅令のうち最初のものを出した王）と、続いて第二と第三の勅令を出した二人の王が、明確に指し示されている。同様に、第三の王国であるギリシャの歴史においては、アレクサンダー大王に代表される強大な王と、その後続いた将軍や諸王も、預言の言葉の中で特定されている。第四の王国である異教ローマについても、その王国の支配者や皇帝たちが具体的に取り上げられている。

イスラエルの王たちは、北王国と南王国のすべてが特定されており、アッシリアの王たちやエジプトのファラオたちと同様に、神の預言の御言葉のうちで象徴である。神の預言の御言葉が実際にアメリカ合衆国の大統領たちに言及するという考えは、目があっても見極めることができず、耳があっても悟ることができない者たちには、突飛に聞こえるかもしれない。しかし、終わりの日々に関する預言の主要な参照点が黙示録十三章の地の獣である以上、その地の獣の大統領たちに神が言及しないと考えるほうが、実際にはさらに不条理である。

アメリカ合衆国の最後の大統領は、預言的な必然により、アメリカ合衆国の最初の大統領によって予表されるはずである。最後の共和党大統領として、彼は預言的な必然により、最初の共和党大統領によって予表されるはずである。最終の改革運動の歴史における最後の大統領として、彼はまた、その預言的時期の最初の大統領によって予表されてきた。さらに、最終たる第三次世界大戦の期間中に統治する大統領として、彼はまた、第一次および第二次世界大戦期に統治した大統領たちによっても予表されていたであろう。

アメリカ史においてすべて起こる三つの世界大戦は、預言の三重の適用を表している。ジョー・バイデンがいま地球全体を導き入れつつある第三次世界大戦は、第一次世界大戦と第二次世界大戦によって予表されてきた。まさに同時に、バイデンは合衆国を第二の内戦へと導いている。今後数カ月にわたり、第二の内戦および第三次世界大戦に関連する預言的運動は、産みの苦しみにある女のように、いっそう激化するばかりである。

第二次世界大戦の危機が激化する中で、ドイツの神学者にしてルター派の牧師であったマルティン・ニーメラーが残した有名な言葉は、次のとおりである。「まず、彼らは社会主義者のもとにやって来た。私は声を上げなかった——私は社会主義者ではなかったからだ。次に、彼らは労働組合員のもとにやって来た。私は声を上げなかった——私は労働組合員ではなかったからだ。次に、彼らはユダヤ人のもとにやって来た。私は声を上げなかった——私はユダヤ人ではなかったからだ。それから、彼らは私のもとにやって来た——そして、私のために声を上げてくれる者は、もはや誰一人として残っていなかった。」時

が歩み続けるにつれ、私たちはこの現在の歴史を振り返り、いま行われている諸行動が、預言的歴史における最終の諸戦争の真の端緒であったことを認めるようになるだろう。

1776年から1798年に至る預言的な期間において、独立宣言、合衆国憲法、そして外国人・治安諸法が道しるべとなっており、その期間は2001年9月11日からアメリカ合衆国が竜のように語るに至るまでの歴史を表している。2001年9月11日は転換点であり、独立宣言はその日付に対応している。独立宣言はまた独立戦争を画するものであり、2001年の愛国者法がその戦争の霊的な反復の始まりであることを指し示している。「revolution」という語は、完全な一周をすることを意味する。

1776年から1798年にかけて、独立戦争はイングランドの王権、そして一般にあらゆる王を拒絶した。憲法は、王権に対してだけでなく、同様に断固として教皇派の権力にも制限を課した。1798年までに、大統領に王権を与える法律が制定されることで、その円環 (revolution) は完成した。

愛国者法は、竜のように語る地の獣にまで及ぶ革命 (車輪) を指し示しており、そこで教皇権も復権する。1776年から1798年までの第一の車輪は、王権の回復へと至る預言的な革命を示しており、また、それが象徴する革命は、教皇権の復権へと至る革命を指し示している。第二の革命戦争は2001年9月11日以来、進行中である。でなければ、なぜそれが「愛国者法」と呼ばれるのか？

最後の大統領の時代において起こる戦争を取り上げる前に、われわれは獣の像の預言的特質について論じ続ける。最後の大統領の時代における、獣の像の形成を取り巻く環境を認識することが重要である。その大統領は、竜の権勢に関連する勢力と闘争状態にある共和党の大統領でなければならない。彼は最後の者であり、ゆえに八人が連なる一期間における第八の大統領でなければならない。アメリカ合衆国の初期の二つの時期、すなわち二度の大陸会議においては、いずれの時期にも八人の大統領がおり、いずれの時期でも、八人のうちの一人が七人に属する者として特定された。したがって、初めにおける二人の証人に基づき、最後の大統領は第八の大統領、すなわち七人に属する者でなければならない。

これらの預言的要素を満たしているのは、ドナルド・トランプただ一人である。ドナルド・トランプがまさに受け継ごうとしている預言的環境を十分に理解するためには、預言的に見れば、第一次・第二次世界大戦は第三次世界大戦の中に反映されており、またそれらの戦争の預言的な特質も、トランプが受け継ごうとしている環境を指し示している、ということを理解する必要がある。とはいえ、三つの世界大戦に関する三重適用を、私たちはまだ採用していない。

イスラムによってもたらされる戦争の激化とそれに続く財政上の問題は、合衆国における獣の像の形成に際し、「第三の災い」におけるイスラムが偽預言者の役割を果たすための手段である。「ろば」、すなわちイスラムの偽預言者は、ろばがキリストをエルサレムへ運んだのと同様に、合衆国の偽預言者を「エルサレム」へと運ぶ。その旅路において、過去の預言の成就を生み出す預言的環境が形成される。1798年、小羊のように始まり、終わりには竜のように語る、地から上って来る獣の歴史のまさに端緒において、「外国

人・治安諸法」が「語られ」た。外国人・治安諸法は四つの法律から成っていた。

帰化法：この法律は米国市民権の取得に必要な居住期間を延長した。

外国人友人法：この法律は、平時において「アメリカ合衆国の平和と安全にとって危険」と見なされた外国人を国外追放する権限を大統領に与えた。政府が適正手続を経ることなく外国人を逮捕し、国外追放することを認めた。

敵性外国人法：この法律は、戦時中、敵対国の男性市民を拘束し、国外退去させる権限を大統領に与えた。

扇動法：四つのうち最も物議を醸した扇動法は、米国政府またはその公職者に対して虚偽で中傷的または悪意ある著述を公表することを犯罪とした。実質的に政府への批判を犯罪化した。

ドナルド・トランプの選挙運動は、前回の大統領任期中に彼が着手した「壁の建設」を完成させるという公約に主に基づいている。彼は、2024年に当選した際には人類史上最大の強制送還が行われると述べている。トランプは、アメリカ政治の舞台で他のどの政治家とも異なる個人的な特徴を持っている。それは、選挙公約を守る、少なくとも守ろうとするという点だ。外国人・治安諸法は、彼の強制送還の公約と完全に一致する法律群にあたる。

トランプが「沼」と呼んだ、腐敗し不道德で弱みを握られた政治家、職業官僚、アルファベット機関、そして億万長者の金融家から成るワシントンDCの根深い政治エスタブリッシュメントに結びつけて彼が行ってきた最大級の非難の一つは、ヒトラーの国民啓蒙・宣伝省の現代的な化身が生み出す「フェイクニュース」、すなわち今日ではMSM（主流メディア）と呼ばれるものだ。Alien and Sedition Actsは、彼の「フェイクニュース」への憎悪と完全に一致する法律を体現している。イエスは常に、物事の終わりをその始まりによって示す。

最初の共和党大統領は、リンカーンの民主党出身の前任者であるブキャナンが引き起こした南北戦争に対処せざるを得なかった。その過程で、リンカーンは人身保護令の効力を停止した。人身保護令とは、拘束や投獄の適法性を法廷で争う個人の権利を保護する法理である。これは、正当な理由なく人を身柄拘束できないことを保証する基本的な法的権利である。被拘禁者のために人身保護令状が申立てられると、政府は裁判所に対してその拘禁の正当な理由を提示しなければならない。

アメリカ南北戦争中、リンカーンは戦時措置として、合衆国内の一部地域で人身保護令を停止した。彼はまず1861年4月にメリーランド州で人身保護令を停止し、その後この停止措置を中西部の一部にも拡大した。この措置は、分離独立や南部連合への強い同情（民主党）を抱く地域で秩序を維持し、反対運動を抑え込むとともに、合衆国側の戦争遂行への干渉を防ぐために講じられた。

リンカーンによる人身保護令状の停止は物議を醸し、合衆国憲法によって保障された基本的な市民的自由の一時的な停止を伴うものであったため、重大な憲法上の問題を提起した。合衆国憲法は、「反乱または侵略の事態において公共の安全がそれを必要とすると

き」には人身保護令状の停止を認めている（第1条第9節）。

リンカーンは、戦時における連邦の維持と国家安全保障のために必要だったとして、自らの行為を擁護した。連邦議会は1863年に人身保護令停止法を可決し、リンカーンによる人身保護令の停止を遡及的に承認するとともに、軍による拘禁に関する一定の手続きを定めた。南北戦争後、戦闘が収束し国が平時の状態に戻るにつれて、人身保護令は数年をかけて徐々に回復された。

また、1871年、共和党員のユリシーズ・S・グラント大統領は、再建期におけるクー・クラックス・クラン（民主党）の恐怖支配のさなか、サウスカロライナ州の9郡で人身保護令を停止した。この停止措置は、暴力に対抗し、新たに解放されたアフリカ系アメリカ人の公民権を保護することを目的としていた。

1942年、フランクリン・D・ルーズベルト大統領（民主党）は第二次世界大戦中に、大統領令9066号に署名し、米国西海岸に住む日系アメリカ人の強制移住と収容を許可した。これは厳密には人身保護を停止したわけではなかったが、日系アメリカ人が適正手続を経ずに拘束され、その法的権利は深刻に損なわれた。

そして2001年、最後のブッシュ（グローバリストの共和党員）は、9月11日のテロ攻撃後、グアantanamo湾や他の施設で、敵性戦闘員と疑われる者の収容を承認した。これらの人々の収容とその法的地位は、人身保護に関連する法的な異議申し立ての対象となった。

そして2021年には、1月6日のペロシ（民主党）裁判は、人身保護令の停止、適正手続の剥奪、違憲の強制収容の実施という発想を踏襲した。2021年のペロシ裁判には、純粋に政治的な目的のためにアメリカ市民の法的権利が棚上げにされたのが初めてであったという特筆すべき点がある。それ以外のときには、特定の敵対主体が明確な、実際の戦争や反乱が存在した。ペロシ裁判における敵は、単に竜に靈感を受けたグローバリストの敵にすぎなかった。憲法の覆しに伴う問題の預言的な傾向を認識することは重要である。というのも、それらは獣の像の形成を示す出来事であり、これは神の民にとっての大いなる試練だからである。

ペロシがあなたのヒロインであろうと、トランプがあなたの旗手であろうと、それ自体は重要ではない。重要なのは、迫り来る危機を認識し、しかるべき備えをすることだ。来たる危機に打ち勝つ者は、天のエルサレムの市民である。そして、獣の像が形づくられる中で、神の律法から背教したあらゆる権力は、忠実な神の子らに敵対して結集しようとしている。かつてサドカイ派（民主党）とパリサイ派（共和党）がそうであったように。

米国におけるイスラムの偽預言者、または世界における背教的プロテスタンティズムによる欺きの働きこそが、政教一致をもたらす。シスター・ホワイトは、再び内戦が起こり、それは現代のバビロンの商人であり、預言的には竜の勢力の代表の半分を成す世界的な銀行家と億万長者たちによって引き起こされると指摘している。もう半分は、職業政治家、弁護士、王や支配者たちである。

インド、中国、ロシア、そしてアメリカの諸都市で、何千人もの人々が餓死している。富裕層は力を持っているがゆえに、市場を支配している。彼らは手に入るものをすべて安値で買い占め、その後、大幅に値上げして売る。これは貧困層にとっては飢餓を

意味し、内戦を招くことになる。『Manuscript Releases』第5巻、305頁。

アメリカ独立戦争は実際の戦争であったが、それは2001年9月11日に開始された政治的戦争を表していた。アメリカ合衆国はいまや二大政党の間で分断された国家となっている。しかし、神の御言葉は決して失敗することがなく、その御言葉はトランプが2024年の選挙で再選されることを示している。実質的にはすでに始まっている内戦は、彼の当選直後に本格化するだろう。これは、初代共和党大統領であったリンカーンのときにそうであったように、彼が引き継ぐことになる内戦の根底にある論理は、国際銀行家と億万長者の商人たちによって作り出されるだろう。彼らは、とりわけ、さらなる金融利得への欲望を助長するために、そして何よりも中間層を消滅させるために、世界規模で抑制なき大量移民を促進するべく、たゆまず働いてきた。バビロンの商人たちは、超富裕層と超貧困層から成る二階級制を打ち立てようとしている。

トランプは、獣の像を立てることを主宰する大統領となる。また、その像の設置を強制するのはイスラームの偽預言者である。そして、見る目を持ち洞察しうる者、また聞く耳を持ち悟りうる者にとっては、2023年10月7日に、第三のわざわいに当たるイスラームによって文字どおりのイスラエル（いにしへの麗しの地）に加えられた攻撃は、イスラームの偽預言者の摂理的働きの明白な成就である。

「多様性・公平性・包摂」の党だと自称する民主党は、彼らが推進してきたサタニックな哲学の報いを今、受けている。2023年10月7日以降、反イスラエル対親イスラエルの論争が、2024年の選挙を前に彼らの党の政治的な力を分断している。その分裂は支持者同士の内紛を生み、事態は、彼らの腐敗した電子投票機がトランプに投じられる実際の票を上回るだけの票を操作する能力をもはや持てないかもしれないというところまで来ている。イスラームの偽預言者の戦争が、地の獣が海の獣の像を造る中で、1989年の終わりの時以来、トランプを第八の大統領（七人のうちの一人）として選出する状況を生み出している。

「多様性・公平性・包摂」という悪魔的な哲学は、LGBTQ+アジェンダを推進することで、ソドムとゴモラの反逆を再現するための基盤の一つである。

同様に、ロトの日にもそうであった。人々は食べ、飲み、買い、売り、植え、建てていた。しかし、ロトがソドムを出たその同じ日に、天から火と硫黄が降り、彼らは皆滅ぼされた。人の子が現れる日にも、同じことが起こる。ルカによる福音書 17:28-30

LGBTQ+のアジェンダはゲイ・プライドとしても表されており、そのこと自体が、地の獣の最終的な道徳的墮落、そしてその後の世界の道徳的墮落を示す。

正しい者の道は悪から離れること。自分の道を守る者は自分の魂を守る。高慢は破滅に先立ち、高ぶった心は倒れに先立つ。へりくだった心でへりくだる者と共にあるほうが、高ぶる者と戦利品を分け合うよりもよい。箴言 16:17-19

高慢は倒れに先立ち、高慢は滅びに先立つ。国家的背教は国家的滅びをもたらし、グローバリストの高慢の象徴は、ソドムとゴモラの反逆の象徴である。靈感は、間もなく到来する日曜法を、ロトがソドム、ゴモラ、そして平野の町々の滅びから辛うじて逃れた出来事と結びつけている。というのも、日曜法の時にローマ教皇権の手から逃れる者たちの象

徴は、ロトの子孫（アンモンとモアブ）だからである。

彼はまた美しい地に侵入し、多くの国々が打ち倒される。しかし、エドムとモアブ、そしてアンモンの子らの主だった者たちは、彼の手から逃れる。ダニエル書 11:41

民主党は今、自らの手で内側から崩壊しつつある。私は政治に関心はない。ただ、現在の歴史を預言的な物語と重ね合わせているだけだ。民主党は世界中の国境を開放するためにたゆまず働き、その結果、前例のない、しかも制御不能な人の流入を許してきた。竜に触発されたグローバリストたちによって、世界中で水門が開かれた。

そこで蛇は女を押し流そうとして、口から洪水のような水を吐き出した。すると地は女を助け、地はその口を開いて、竜が口から吐き出した洪水を飲み込んだ。竜は女に激しく怒り、神の戒めを守り、イエス・キリストの証しを持つ彼女の子孫の残りの者たちと戦おうとして出て行った。黙示録 12:15-17。

「残りの者」とは十四万四千人のことであり、十四万四千人の歴史は2001年9月11日に始まった。それ以来、竜の勢力は四方八方に向けて「洪水のように口から水を吐き出し」続けている。水は人々を表す。

そして彼は私に言った。「あなたが見た、淫婦が座っている水は、もろもろの民、群衆、諸国、諸言語である。」ヨハネの黙示録 17:15。

十四万四千人の封印の時期に不法移民の洪水の水門を開くのは、竜の権勢の地上の代表者（グローバリスト）である。世界各地における竜の「洪水」は、まもなく到来する日曜法の時に、主が標旗を掲げられようとしていることを示している。ヨハネの黙示録第十二章における竜の洪水は、アメリカ合衆国の成立初期に地の獣に飲み込まれたが、今や竜の洪水は再び現れ、迫り来る日曜法の危機を警告している。なぜなら、敵が洪水のように押し寄せるときにこそ、神はご自身の標旗を掲げられるからである。

われらは主にそむき、主に逆らって偽りを言い、われらの神から離れ去り、しいたげと反逆を語り、心から偽りの言葉を思いめぐらし、それを口にする。こうしてさばきは退けられ、公正は遠くに立つ。真理は広場に倒れ、公平は入ることができない。まことに真理は失われ、悪を離れる者は獲物とされる。主はこれを見られ、さばきのないことを不快に思われた。主は人のいないのを見、執り成す者のないのに驚かれた。それゆえ、ご自分の腕が救いをもたらし、ご自分の義が支えとなった。主は義を胸当てとしてまとい、救いの兜を頭にかぶり、復讐の衣を装い、熱心を外套として身にまとわれた。彼らの行いに応じて、主は報いを返される。敵には憤りを、仇には報いを、島々にも報いを返される。こうして、西の方では主の御名が、日の出の方ではその栄光が畏れられる。敵が大水のように押し寄せるとき、主の霊がこれに対して旗を掲げる。贖い主がシオンに来、ヤコブの中の背きを離れる者たちのもとに来る、と主は言われる。主は言われる、わたしに関しては、これが彼らと結ぶわたしの契約である。あなたの上にあるわたしの霊、そしてわたしがあなたの口に置いたわたしの言葉は、今よりとこしえに、あなたの口からも、あなたの子孫の口からも、あなたの子孫の子孫の口からも離れることはない、と主は言われる。イザヤ書 59:13-21。

敵が洪水のように押し寄せるときに掲げられる旗印は、神の御言葉における規範でもある。間もなく制定される日曜法に先立つ時期にあつて、不法移民の洪水は、恩恵期間がま

さに閉じようとしているしるしである。イザヤが旗印の掲揚について語る時に指し示す情勢は、無法の時代を描写している。というのも、彼はこう述べているからである。「裁きは退けられ、正義は遠くに立ち、真理は巷で倒れ、公正は入り込むことができない。まことに、真理は消え失せ、悪を離れる者は自ら獲物となる。主はこれを見られ、裁きのないことを悪しとされた。主はまた、ひとりの人もないのを見、とりなし手のいないのを驚かれた。」ジョージ・ソロスのような者たちによって資金提供され、民主党の政治家たちによって黙認されてきた無政府状態は、イザヤのこの箇所と関連づけて、ホワイト夫人によつて的確に描写されている。

裁判所は腐敗している。為政者たちは利欲と肉の快樂への愛に動かされている。不節制が多くの人々の判断力を曇らせ、サタンが彼らをほとんど完全に支配している。法律家は墮落し、買収され、惑わされている。法律を施行する者たちの間には、酩酊と酒宴、情欲、ねたみ、あらゆる種類の不正が見られる。「正義は遠くに立ち、真理はちまたに倒れ、公平は入ることができない。」イザヤ書 59:14. 大いなる論争、586.

クリティカル・レース理論のような歪められた歴史叙述に基づく不法移民、アンティファ（反ファシスト）に代表される無政府主義的運動、ブラック・ライブズ・マターのような暴力的運動は、金銭への愛に動かされる竜の政治的支配者たちによって支持・推進されてきた。そして、腐敗した裁判所と法律家たちは、黙示録第十一章で二人の証人が殺されたのと同じ通りへ真理を投げ捨てた。その通りは無神論（エジプト）と不道徳（ソドム）の都にあり、そこは竜とその代表者たちの都である。民主党のもたらす所産が象徴する環境は、預言的には洪水として表されており、神の敵であるサタンがその水門を開くとき、それは神の旗印が掲げられようとしている証である。

次回の記事でこの研究を続けます。

世界の有様は、苦難の時がまさに私たちに迫っていることを示している。日々の新聞は、近い将来に恐るべき争乱が起こるしるしで満ちている。大胆な強盗が頻発している。ストライキは日常茶飯事である。盗みや殺人が至るところで行われている。悪霊に取り憑かれた者たちが、男や女、幼い子どもたちの命までも奪っている。人々は悪徳に耽溺し、あらゆる種類の悪がはびこっている。敵は正義をゆがめ、人々の心を私利私欲で満たすことに成功した。「正義は遠く離れ、真理は街路に倒れ、公平は入ることができない。」イザヤ 59:14. 大都市には、貧困と悲惨のうちに生き、食べ物も住まいも衣服もほとんど欠いている人々が大勢いる。ところが同じ都市には、心の望む以上のものを持ち、贅沢な暮らしをし、豪華に調度された家や身の飾りに金を注ぎ、さらには一層悪いことに、官能的な欲望の満足、酒やタバコ、そして脳の力を損ない、心の均衡を失わせ、魂を卑しめるその他のものに金を費やしている者たちもいる。飢えに苦しむ人々の叫びは神の前に届いているが、その一方で、あらゆる種類の抑圧と強奪によって、人々は巨万の富を築いている。

私は、夜のさなか、天に向かって階を重ねてそびえ立つ建物を見るようにと呼びかけられた。これらの建物は耐火であると保証され、所有者や建設者を栄えさせるために建てられていた。建物はますます高く、さらに高くそびえ立ち、その中には最も高価な資材が用いられていた。これらの建物の所有者たちは、「どうすれば最も神に栄光を帰せるか」と自らに問うてはいなかった。主は彼らの思いの中になかった。

これらのそびえ立つ建物が建てられていくにつれ、所有者たちは、自己の欲を満たし隣人の羨望をかき立てるために使える金を持っていることに、野心に満ちた誇りで喜び勇んだ。彼らがそのように投じた金の多くは、強圧的な取り立てや、貧しい者を虐げて搾り取ることによって得られたものだった。天では、あらゆる商取引が記録されていることを彼らは忘れていた。不当な取引も、あらゆる詐欺行為も、そこに記されている。やがて、人々はその詐欺と傲慢のうちに、主がこれ以上は越えることを許されない一線に達し、ヤハウエの忍耐には限度があることを知るだろう。

次に私の前に現れた光景は、火事の騒ぎであった。人々は、そびえ立ち、耐火だとされている建物を見て言った。「それらは完全に安全だ」と。だが、これらの建物は、まるでタールでできているかのように焼き尽くされた。消防車は破壊を食い止めるために何もできなかった。消防士たちは消火ポンプを操作できなかった。『証言』第9巻、12、13。